

はじめてのキリム織り

Koyun 由紀子

キリム織りは人生そのもののようです。

「完璧なのは神様だけ」という人間の不完全さを受容してくれるキリム織り。その作業工程は、羊を育て、毛刈りして、洗って干して、梳いて、糸を紡ぎ、紡ぎ、紡ぎ、そして身近な染料で染めて、タテ糸を張って織る。それは遊牧民の女性たちにとって日常生活の中に組み込まれた大事な手仕事。あまり外で言葉を発しない女性たちは、心の内をキリム織りに託します。モチーフに想いを織り、表現するのです。ダンダンダンスとキルキット（くし）に力を込めてヨコ糸を打ちこみ、不安や不満を吐き出し、また愛を伝え、祈るのです。女性たちにとっては、とても大切な自分の時間、祈りの時間だったはず。

キリムは本来売ることを目的にしているため、とてもおおらかで、まちがいてもたくさんあります。日によって気分も変わるし、織り終わるころに上達する。まちがいは人間である証であって、その不完全さこそがキリムの魅力なのです。

キリム織りは、現代において心のリセットをするために、また生活に彩りを添えるためにも、日本人向きの手仕事だと感じています。それは、キリム織りが自分の中の既成概念や完璧さを求める窮屈で洗脳された思考を開き、解放する力を持っているからです。

失敗や人間の弱さを受け入れ、嫌な過去は忘れ、明日へ未来へと明るく笑い飛ばすような一人ひとりの人生のストーリーがキリム織りにはあると、私はそう感じています。

Koyun 由紀子

- ・キリム手織工房 koyun
- ・キリム教室主宰
- ・長崎県五島市出身、東京在住。
- ・著書『はじめての、小さなキリムと小物たち』（日本文芸社）

トルコ、グアテマラ、アンデスの古代から伝わる染織技法の復元が夢。教室やワークショップで、シンプルな糸仕事の魅力を伝え広めています。